

2010年7月29日(木) 18:00～18:40

【出席者】

取締役常務執行役員 営業本部長 柳澤 憲一

取締役常務執行役員 経理財務部長 小酒井 健吉

執行役員 開発本部長 村上 誠一

【2010年度第1四半期決算】

行政処分の影響

Q / 第1四半期の業績に、行政処分の影響はどの程度あったのか？ また、通期業績予想を修正していないが、今後、具体的にどのようなリスクを想定しているのか？

A / 具体的な影響額を申し上げることはできないが、現時点では大きな影響は出ていない。

6月11日に厚生労働省に業務改善計画を提出した後、各医療機関に業務改善計画の内容をご説明し、再発防止に向けた取り組みについてご理解いただけるよう努力しているが、医療機関によっては、何らかの対応を実施される可能性も考えられる。このように、不確定要素が多い中、下期以降の業績は極めて予想し難い状況であることから、通期業績予想については修正していない。

Q / 業務改善計画書の提出後の取り組みについて教えてほしい。

A / 社内に「メドウェイ業務改善計画フォローアップ委員会」を設置し、業務改善計画の遂行状況を確認・評価し、その実施状況を自主的に当局に報告していく。

2010年度上期業績予想

Q / 5月に公表した通期業績予想と今回新たに公表した上期業績予想とは、算出の前提が異なるのか？

A / 上期業績予想は、第1四半期の実績を踏まえ、現時点で行政処分の影響を可能な範囲織込んで算出している。一方、通期業績予想は、期初に行政処分の影響が不確定の中、予想した数値であり、上期と通期の業績予想では前提が異なるものをご理解いただきたい。

Q / 売上高について、第1四半期実績と第2四半期予想を比べると、例年のトレンドより第2四半期予想が弱い印象であるが、行政処分の影響をどの程度織込んでいるのか？

A / 行政処分の影響は、大きくは織込んでいない。第1四半期の売上比が例年よりも高いのは、本年3月度の薬価改定前の卸在庫低減の反動や行政処分に起因する需要増加などによるものと考えており、その増加分の反動が第2四半期に現れるものと想定している。

営業関連

Q / 6月に承認を取得したレミケードの潰瘍性大腸炎について、対象患者数を教えてほしい。

A / 国内における患者は約 10 万人であり、そのうちレミケードによる治療の対象となる既存治療効果不十分の中等症から重症の潰瘍性大腸炎患者さんは、数万人程度と推定される。

Q / ジェネリック医薬品の売上が前年同期に比べ約 60%伸びている要因は何か？

A / 当社が「ジェネリック」として開示している売上高は、田辺製薬販売の取扱品である。売上の伸びには、各製品の売上増に加え、当社が扱っていた長期収載品の一部を田辺製薬販売に移管したことによる増加も含まれている。

Q / ジェネリック医薬品も行政処分の対象となっていたのか？ その影響は出ているのか？

A / 田辺製薬販売は処分の対象ではなかったが、田辺三菱製薬グループとして、営業活動を全面的に自粛した。ただし、第 1 四半期においては、ジェネリック医薬品以外の医薬品同様、大きな影響は出ていない。

原価・販管費

Q / 第 2 四半期の原価率は 40.0%と前年同期に比べ 4 ポイントの悪化となる見通しだが、この要因は何か？

A / 薬価改定が 1.5~2 ポイントの悪化要因となっている。それ以外はレミケードの売上増など製品構成差によるものであり、特殊な要因はない。

Q / 例年、販管費は上期と下期であまり大きく変わらないという傾向があるが、下期も上期並みの 900 億円程度と見ておけば良いのか？

A / 上期に比べ下期の販管費が大きく変動する要素はない。ただし、研究開発費の進捗状況によっては、多少増減する可能性はある。

Q / 早期退職など人員削減策の実施予定はあるのか？

A / コストシナジー 240 億円(2007 年の合併後累計)をめざし、他のコスト削減策と同様に要員適正化についても鋭意進めているところである。

【開発パイプライン】

FTY720

Q / FTY720 について、国内での開発はどのような状況か？ また、2010 年中の申請は可能と考えるか？

A / 現在、フェーズ 2 試験を終了し、データの解析を行っている。海外試験も良好な結果が得られているので、年内の申請をめざしたい。

MP-424

Q / MP-424 について、国内での開発はどのような状況か？ また、臨床試験結果の公表などは予定しているか？

A / 現在、フェーズ 3 試験を実施中であり、2011 年の早い段階での申請を予定している。臨床試験結果については、しかるべきタイミングで公表していきます。

モディオダール

Q / 米国では10億ドルくらいの売上規模であるが、日本でも米国並みに売上を拡大できるのか？

A / 米国で売上が拡大している要因は、交代勤務睡眠障害が適応として認められているからである。一方、日本では、米国のような適応が取れていない上に、現在申請している適応症の閉塞性睡眠時無呼吸症候群は、CPAP 治療で効果が不十分な患者の日中の過度の眠気を対象としているため、米国ほど大きな市場にはならないと考える。

MT-3995

Q / MT-3995 はアルドステロン受容体のブロックерであり、既に上市品もある。既存品との差別化を含めて、どういうポジショニングか教えてほしい。

A / 同じ作用の薬剤として、スピロラクトンとエプレレノンがある。抗アルドステロン薬は、高血圧だけでなく、心臓系でも期待されており、新しい知見も出つつある。両剤に比べて有効性や安全性の面で優れた新しい薬剤として市場に投入できればと考えている。

ラジカット

Q / ラジカットの ALS(筋萎縮性側索硬化症)の効能追加について、フェーズ 3 試験が終了していると聞いたが、試験結果および申請時期は？

A / 検証的試験は終了しているが、効果が十分に証明できていない。当局と相談しながら進めていく予定であり、現時点では申請時期について明言できない。

メインテート

Q / 未承認薬にも指定されているメインテートにおける心不全の効能追加について、申請時期はいつ頃を予定しているのか？

A / 順調に進捗すれば、3年後ぐらいでの申請を考えている。

T-0047

Q / GSK に導出した T-0047 のフェーズ 2 試験について、何かアップデートはあるか？

A / GSK からは今後の進め方について検討中と聞いている。現在のところ、それ以上の情報は得ていない。

以上